

何もかもはできなくとも、“何か”はきっとできる
クリスマスキャンペーン 2025

今、私たちにできる4のこと

1 チャイルド・スポンサーになる

1日約150円の継続支援で、暴力や貧困の連鎖を断ち切り、救える未来があります。※毎月 4,500 円

▶ Web

※女の子のご支援を希望の方は、申込フォームの
メモ欄に「1000GIRLS」と記載をお願いします。



▶ お電話

03-5334-5351
(平日10:00-17:00)

2 クリスマス募金(水・食糧支援)に協力する

ご希望の金額でご支援いただけます。今、子どもたちの命を守る食糧を贈り、
未来を変えていくため、皆さまのお力を貸してください。

Web または同封の用紙からお申し込みください。



3 SNSで「いいね！」やシェアをする

あなたの「いいね！」やシェアが、まだ知らない誰かの目に止まり、興味を持つ人が増えていることが、世界を変える力になります。まずはフォローやお友だち追加、ぜひお願いいたします。



FACEBOOK
@worldvisionjapan



X
@WorldVisionJPN



Instagram
@worldvisionjapan



LINE



4 お友だちに紹介する

皆さまが紹介くださることを通して、世界の子どもたちの状況を知り、
支援にふみだしてくださる方がいます。支援の輪を広げるご協力をお願いします。

様々な形でお寄せいただく温かいお気持ち・ご支援が、世界を変える一歩となっています。
心より感謝申し上げます



World Vision News

“何もかも”はできなくとも、
“何か”はきっとできる

クリスマスキャンペーン 2025 始動

“何もかも”はできなくとも “何か”はきっとできる

私たちの目指す世界は、幻想なのだろうか？



—MVCゼロをめざして—

MVC=Most Vulnerable Children とは、日本語で「最も弱い立場にある子どもたち」を指す言葉です。私たちワールド・ビジョンでは、このMVCとされる子どもたちのいない世の中、すべての子どもたちが健康で、養育を受け、守られ、愛されているのだと感じることができる世界、ひいては私たちのような支援団体がいざれ必要とされない世界を心から願い活動を行っています。

しかし、世界では今も争いは絶えず、気候変動の影響やそれに伴う災害も年々深刻さを増し、まだまだ多くの人々・子どもたちが支援を必要としています。

そのような中でも、さまざまな支援や地域の人々の努力により環境が改善され、自立の道を歩み始めた地域があり、またかつて「支援を受ける側」だった子どもたちが成長し夢をかなえたり、「誰かを支援する立場」になったりと、希望の光が見えていることもまた事実です。

チャイルド・スポンサーシップの支援を受けて成長した アメリカさんのストーリー

フィリピンのサマル地域に住むアメリカさんは、チャイルド・スポンサーシップの支援を受け、希望を見出したチャイルドのひとりです。幼い頃は引っ込み思案で自分に自信が無かったという彼女も、今では自分に自信が持てるようになります。チャイルド・スポンサーからの手紙は「宝物」と大切にし、台風が家を襲った際も真っ先に抱えて避難したそうです。

「初めて手紙をもらった時は、信じられないほど心が震え、そして温かい気持ちになりました」

現在は「人生全体に関わる教がしたい」と、手芸やICTなどの実用教育に関わる教員になることを夢見て頑張っています。



「自分に自信が持てなかった」という幼少期

明るい笑顔で将来の夢について語ってくれました

「“何もかも”はできなくとも “何か”はきっとできる」——これは、ワールド・ビジョンの創設者であるボブ・ピアスが語った言葉です。世界にはあまりにも問題が多く、すべてひとりで解決することはできません。けれど「自分ができる何か」を続ければ、それは積み重なり、やがて大きな支援となります。私たちは、アメリカさんのような子どもたちが、世界を変えていく希望の光になると信じて、今日も活動しています。

では、皆さまからいただいたご支援は、支援活動にどのように生かされているのでしょうか？

スマヤちゃん(8歳)／バングラデシュ
内職を手伝い家計を支えながら、学校の先生になる夢を持っています。

貧困の連鎖を断ち切り、本当の自立を目指す チャイルド・スポンサーシップの現場から

「私たちの寄付したお金は、どう使われているの？」

これは、ご支援者の皆さんから多く寄せられる質問の1つです。チャイルド・スポンサーシップ事業では、基本的に現金を直接配ることはしません。貧しい暮らしの中では、日々の生活に精一杯で将来に目を向けて備えておくことが難しく、地域によっては貯金という習慣が無いことも。また、子どもたちの教育のためにお金を使ったり、どんなに立派な校舎を建てても、教育の大切さを親が認識していないければ、子どもは学校に通うことはできず、貧困の連鎖が途切れることはできません。ですから、寄付金を直接配る方法では、「その場限りの手助け」で終わってしまい生活の改善にはつながらないのです。

地域の自立につながる、『根っこを変える』 『未来への種まき』を行う支援

チャイルド・スポンサーシップ事業では、まずスタッフが、地域の人々の意見やニーズを丁寧に聞き取り、その後、地域ごとの状況や課題に応じて、支援計画を立てます。地域の人々へ働きかけ「手洗いは大切である」「女の子も学校に通って当然だ」といった考え方や慣習に働きかける『根っこを変える支援』と、子どもたちの教育に力を入れたり、安定した収入を継続的に得られるようにするための技術研修などの『未来への種まきとなる支援』を行っています。



ワールド・ビジョンの支援が終了した後も、再び貧困に陥ることなく、地域の人々が自分たちの力で生計を立て、子どもたちを守り育てる。そんな「本当の自立」を目指して活動しています。



フィリピン・サマール開発地域での事例

支援内容

ワールド・ビジョンと現地の農業関連企業の協力で、グループへ鶏の雛と飼育設備を提供し、飼育や記帳方法の研修を実施。

成果

10人前後で約280羽の鶏を飼育し、毎日200個前後の卵を生産。これらを市場で販売して得た収入を分配し、生活費や子どもの学用品の購入に充てた。活動開始から1年で月々約1000ペソ(日本円で2700円)の副収入を得られるように。※月収等はサマール地域での参考値です



ワールド・ビジョン・フィリピン事務所のスタッフとして支援地を15年見続けてきたリーゼルさんは言います。「私は、最終バスの時間が過ぎても、必要があるなら子どもたちへの家庭訪問をやり遂げます。それは私の『仕事』ではなく『情熱』に動かされてやっていることだから」。誰かに強制されたからではない、子どもたちの未来を良いものにしたいと本気で願う人たちによって、支援は支えられているのです。支援を受ける子どもたちと、チャイルド・スポンサーやスタッフの関係は、与えられる側・与える側の関係ではなく、ともに未来を築いていく関係にあると考えています。

スタッフの想い 「自分以外のだれかを想う」多くの人々に支えられている



野本 理恵 支援事業部 プログラム・コーディネーター

青山学院国際政治経済学部卒。英国サセクス大学にて農家の生計向上を学び、Poverty and Development 修士課程修了。アビームコンサルティング、アクセンチュアなど民間企業に勤務したのち、日系NGOにてスリランカの開発援助に従事。2019年ワールド・ビジョン・ジャパンに入団し、現在は開発1課にて主にアジア・アフリカ地域の事業を担当。

先日、かつての支援地を視察に行った際、12年前にワールド・ビジョンの支援によって建設された給水所を訪りました。その給水所は、今も毎日使用されており、地域の住民の手によって、しっかりと管理・維持されていました。皆さまからのご支援が、確かに地域に根付いていることを肌で感じた瞬間でした。また、支援を開始した当初は現地のスタッフでさえもその貧困の状況に驚いたという地域で、支援を受けて成長し、まもなく高校を卒業するという少女が教えてくれました。「ワールド・ビジョンが私を育ててくれた」と。ご支援者の皆さまが子どもたちを育て、支えてくれたのです。私たちの活動は、ご支援者の皆さま、そして多くの熱意を持った現地のスタッフとボランティアなど、「自分以外の人の想う」多くの人々の気持ちが集まり行われ、人々の心に希望の灯をともしています。皆さまからのご支援に、心より感謝しています。

このクリスマスという季節に、ご支援者の皆さま、支援地域の人々、WVのスタッフと活動に関わる人々が、子どもたちの希望に満ちた未来を願い、つながり合うことを願っています。



クリスマスキャンペーン2025実施中!

「何もかもはできなくとも、何かはきっとできる」の想いに賛同し、新たにチャイルド・スポンサーとなってくださるかたを募集しています
新たに支援を始めたかた、興味のあるかたへの紹介もこちらから▶



世界に広がる飢餓の要因：2つのC 緊急人道支援の現場から

今、世界では多くの人が飢餓に直面し、「当たり前の食事」を得られずにいます。その背景にあるのが、2つのC—Conflict(紛争)と Climate Change(気候変動)です。

Conflict 紛争
紛争の影響下にある地域では、道路や水道等のインフラが破壊されたり、物流の停滞で店頭に品物がなかつたり、また避難生活で仕事を失い収入がない等、水や食べ物を手に入れることがとても難しくなっています。空腹のまま眠りにつく子どもも少なくありません。

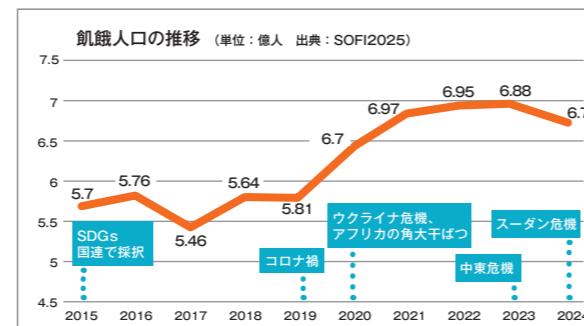
Climate Change 気候変動
気候変動による干ばつや豪雨も、飢餓を招きます。長引く干ばつで井戸が枯れ作物が育たず収穫がなかつたり、豪雨や洪水で、収穫前に畠ごと流されてしまうケースもあります。



遠くまで水汲みに行く子どもたち（ソマリア）



野生の果物を食べる子どもたち（ソマリア）



栄養不良に陥る子どもたち

ワールド・ビジョンでは、栄養不良の子どもを特定するために、栄養支援のスタッフが診療所や各家庭を訪問して、子どもたちの二の腕の太さを測ります（上腕測定）。腕周りが 11 cm を下回る細さだと、栄養不良と判定されます。深刻なケースでは、腕周りがおよそ 10 cm、ペットボトルのフタの直径ほどの細さになっている子どももいます。栄養不良と判定されると、栄養改善プログラムが開始されます。これは、毎日規定量の栄養治療食 (RUTF: Ready to Use Therapeutic Food) を、家庭で摂取し、身長・体重の経過観察を行うものです。栄養治療食は、必要なカロリーとミネラルが配合されたペーストで、封を開けてすぐ食べられます。短期間で栄養状態を改善する、命を救う食べ物です。



上腕測定メジャーの赤色（11.5 cm未満）
は、重度の栄養不良（ソマリア）



ペースト状の栄養治療食（RUTF）

命の境目を生きのびた、ホーテンスちゃん

紛争下のコンゴ民主共和国に暮らすホーテンスちゃんは、2歳のときに母が家を出てしまい、祖母と暮らしていました。住んでいた地域で戦闘が激しくなり、祖母と2人で別の地域へ避難しました。家計の厳しい避難生活の中で、充分な食事がとれず、ホーテンスちゃんは衰弱して、歩くことができなくなりました。避難先でワールド・ビジョンが家庭訪問をおこなっており、その中でホーテンスちゃんの急性栄養不良が判明しました。すぐに、病院へ搬送され治療を受け、症状が改善した後に栄養改善プログラムが提供されました。3ヶ月後には体重も増え、友だちと元気に遊べるまでに回復しました。



深刻な栄養不良で歩けなかったホーテンスちゃん



回復したホーテンスちゃん

皆さまのご支援が、子どもたちの今を支えています

難民支援募金

(2024年10月～2025年7月末)

のべ4706人から、
約**7290万円**

のご寄付

届けた支援

- ・避難先から帰還する人々へ、水・食糧、診療所での診察、現金給付などの緊急人道支援（アフガニスタン）
- ・爆撃等で損傷した校舎修繕、教材提供（シリア）
- ・難民、障がい等、弱い立場にある子どもたちへの公正な学習機会の提供（補習授業や、校舎のバリアフリー化等）（ヨルダン）



校舎の状況を調べるスタッフ（シリア）



現金給付を受ける親子（アフガニスタン）

ミャンマー大地震 緊急支援募金

(2025年3月～2025年7月末)

のべ3074人から、
約**3728万円**

のご寄付

届けた支援

- ・地震の被災者への食品の配布
- ・安全な水と衛生設備の支援
- ・多目的に利用可能な現金の給付
- ・心理社会的サポート（被災で傷ついた心のケア）
- ・子どもの居場所作り等、保護活動



衛生キットの配布に立ち会う中村スタッフ



子どもグループの活動を視察（同スタッフ）

報告会のお知らせ：ワールド・ビジョンの水・食糧支援活動について

2025年12月（予定）に活動報告会を準備中です。支援事業部のスタッフから、水・食糧支援の成果や課題について、ご報告いたします。日時、会場等の詳細が決まり次第、ワールド・ビジョン・ジャパンのホームページやSNS等でお知らせいたします。

この冬、世界の子どもたちのお腹を満たしたい！ クリスマス募金（水・食糧支援）のご案内



このクリスマス、世界のどこかで、何もない食卓を囲んで過ごす子どもがいます。ワールド・ビジョンは、この冬に世界の子どもたちのお腹を満たす支援を届けたいと願っています。どうか、たくさんの子どもたちが、希望をもって食卓を囲むことができるよう、クリスマス募金（水・食糧支援）にお力を貸してください。

詳しくは
こちらから



「世界の友達へ」アクションを起こしたグローバルキッズ＆ユース

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、日本の子どもたちが世界の現状をよく理解し、積極的に国際協力に参加していくことを願い、幅広い年齢層を対象として講師派遣や事務所訪問の受け入れなどの「グローバル教育」を実施しています。ともに生きる世界の同世代のためにアクションを起こした皆さんの取り組みをご紹介します。

「こんな世界をつくっていきたい」サマースクールに参加した小学生

WVサマースクールで途上国の子どもたちの水汲みの大変さや、栄養不良の子どもたちの腕の細さを確認した小学生の皆さん。「みんなで食べものをわけあう世界にしたい」「水くみに行かなくていいように井戸をつくってあげたい。学校のクラスのみんなと協力したい」など話し合いました。また、サマースクールで学んだことを自由研究にまとめてクラスメイトやまわりの人間に伝えるアクションを起こした小学生もいました。



富の分配を疑似体験しアイディアや感想を発表しました



「こんな世界をつくっていきたい」メッセージを書いて地球パネルに貼り付けました

「会ったことはないけど、みんな友達」募金を呼びかけた中学生

青山学院中等部の緑信会の皆さんは、ミャンマーで地震が起きた際にメンバーで話し合い募金活動に取り組んでくださいました。「当番を決めて一週間、朝7時40分頃からエントランスで募金箱を持って呼びかけました」「友達や知らない人も立ち止まってくれて嬉しかったです。早起きをして募金箱を持って呼びかけるのは大変だったけど、貢献できてよかったと思いました」「僕は世界82億人の人たちが、会ったことはないけど、みんな友達だと思っています。だから災害が起きたら助けたいと思って募金活動をしました」皆さんにはWVJから感謝状をお贈りし、学校の礼拝の中で支援報告の時間をいただきました。



青山学院中等部緑信会メンバーの皆さん

「最高の1日になった」「自分の成長にもなった」ユースボランティアの高校生・大学生

WVサマースクールに参加する小学生親子の活動を準備から運営まで支えてくださった高校生・大学生のユースボランティアの皆さん。猛暑の夏休みに、WVJ事務所に来てイベント準備にあたり、当日は小学生の皆さんが怪我無く楽しく参加できるよう一人ひとりに寄り添いました。「初めてボランティア活動に参加して緊張したけど、子どもたちの笑顔が見られて本当に嬉しかった」「小学生が国際協力に関心を持つ機会になればと思って参加した。自分の成長にもつながる貴重な機会だった」参加した高校生・大学生から「またボランティア活動に参加したい」という回答が100%という結果になりました。



小学生にグローバルキッズ認定証を手渡す
ユースボランティアの大学生



「国際協力へ関心を持つ同世代とつながる機会にもなった」ユースボランティアメンバー

WVJでは、ともに生きる世界の子どもたちのためにアクションを起こす支援の輪が広がることを願っています。学校としてチャイルド・スポンサーシップのご支援に参加していただくこともできます。また、募金活動に取り組んでくださる際にご活用いただける貸出用パネルや募金箱もご用意しています。ぜひご活用ください。



チャイルド・スポンサーの「マイ・ストーリー」

ご支援者の「マイ・ストーリー」今回ご紹介するのは、埼玉県の石川尚子さまのストーリーです。2005年からワールド・ビジョンの活動をご支援いただき、これまでに途上国の水・衛生環境の改善や紛争地域の子どもたちの支援、そして近年では能登半島地震の被災者支援など、世界と日本の子どもたちに幅広く支援を届けてくださっています。



趣味の登山で鹿島槍ヶ岳周辺を訪れた際の石川さまご夫妻

「夫も私も教員でした。子どもたちの健やかな成長こそ、世界にとっての財産になると思い、ワールド・ビジョンの活動に関わるようになりました。夫が亡くなった後も、子どもたちのためにできることをしたいと考え、今もワールド・ビジョンを応援しています。」

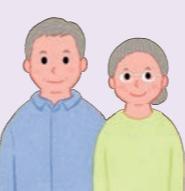
松本スタッフより

石川さまからいただいた「支援が必要な人々のことを一番よく分かっているのはスタッフの皆さん」「紛争も災害もなくならず、支援する側も大変で、むなしくなることもあるかもしれません。でも、困っている人がいるのだから、続けてくださいね。私も応援するから」との言葉に、苦しいと感じた時はいつも励まされています。

想いを未来へつなぐ—予備的遺言による遺贈のかたち

「遺贈」とは、遺言によって財産の一部またはすべてを、特定の個人や団体に無償で譲与することです。しかし、遺言書を作成した後に状況が変化し、トラブルにつながることもあります。そこで助けになるのが、相続人が遺言者より先に亡くなった場合に備え、次に相続（遺贈）する相手を指定しておく「予備的遺言」です。

長年にわたりチャイルド・スポンサーとして支援くださっているYさまご夫妻（70代）も、「配偶者が遺言者より先に死亡し、遺言者も死亡した場合は、ワールド・ビジョン・ジャパンに遺贈する」という予備的遺言を作成してくださいました。



「私たち夫婦には子どもがいません。遺したもので周囲の人に争いが起きてほしくないという思いから、予備的遺言を選びました。無事に作成できて、安心しました。必要なあるところに役立てほしいです」（Yさまのコメント）

遺贈寄付にご関心のある方は、
ぜひお気軽にご相談ください。

TEL:03-5334-5355 (平日10:00-17:00)
メール:donation@worldvision.or.jp

拡大版 一事務局長交代のお知らせ 世界に思いをはせて

事務局長木内真理子は9月30日をもって退任し、10月1日付で中島みぎわが新事務局長に就任いたしました。これまでの皆さまのご厚意に感謝申し上げるとともに、今後も変わらぬご支援をお願い申し上げます。



木内真理子

青山学院卒、英国ロンドン大・オックスフォード大学院修了。国際協力銀行 (JBIC) でアフリカ、アジアの開発支援を担当。母になり転職。東京大学勤務を経て2008年、「現場に戻ろう」を合言葉にWVJへ。2017-25年理事・事務局長。現場と明るい未来をつなぎたくて、会議も現場も全力疾走。燃料は笑顔とコーヒー。

好きな本: 藤沢周平「風の果て」「三屋清左衛門残日録」

好きな映画: 「Sense and Sensibility (邦題『いつか晴れた日に』)」1995年

2017年4月より8年半、事務局長として多くの方々に支えていただきましたこと、心から感謝申し上げます。20年務めた前任の片山より引き継いだ就任当初は、崇高なビジョン提唱と強いリーダーシップを期待されていると思い込み、ものすごく緊張していたように思います。けれども、ある先輩から、「リーダーシップは多様。強く牽引するだけが能じゃない。時に同僚をケアし、時に動機づけ、ある時は新機軸を考え、あるいは失敗から再生に導く一組織には局面により様々なリーダーシップが必要。でも、すべてを一人で担う必要はない。リーダーシップは役職や経験に関係なく、誰もがそれぞれの形で持っているから」と諭され、肩の力が抜けました。

自分にない力は同僚に頼り、必要なリーダーシップを見極めて

お願いすることこそ、自分の役割だと思うようになりました。それからは、国内外の同僚だけでなく、NPOの仲間、企業や政府の方々、そして何よりご支援者の皆さまに、幾多となく「助けてください」とお願いをしてきました。快く応えてくださった皆さまの存在がなければ、世界の子どもたちに夢と希望を届けることはできませんでした。日々の小さな助言から、困難な局面での大きな後押しまで、その一つひとつの支えに、この場をお借りして心より御礼申し上げます。現事務局長の中島は、私よりずっとしっかり者ですが、激動の時代にあって、皆さまの温かいサポートは不可欠です。新体制で歩み出したWVJを、今後とも変わらぬ思いで見守り、力を貸してください。どうぞよろしくお願い申し上げます。



中島みぎわ

東京大学教養学部卒(国際関係論コース)。幼い頃にした募金箱で途上国の様子に触れ、大学在学中にNGOの存在や草の根の活動に関心を持つ。民間企業勤務ののち、2005年にWVJに入職。財務経理、支援事業の会計管理、マーケティング(ファン・レイジング)、戦略企画担当を経て2025年10月より現職。

好きな本: 近藤紘一「サイゴンから来た妻と娘」/黒木亮「トップ・レフト」

好きな映画: 「きっと、うまくいく」(原題: 3 Idiots 2009年インド)

いつも温かいご支援をいただき、心より御礼申し上げます。このたび事務局長に就任いたしました中島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私が国際NGOの活動に関心を持ったきっかけの一つは、大学時代にフィリピンを訪れたことでした。奇しくも就任直前の今年8月、再びフィリピンを訪問する機会がありました。今回訪れたのは、チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラムが数年後に終了を迎える場所です。現地の方々や子どもたちは、支援による養鶏など生計向上の取り組みや学校の様子を、感謝と自信、そして希望にあふれた顔で紹介してくれました。高等教育に進んだチャイルドの「自分にこんな可能性があるとは知らなかつた」という言葉に、皆さまのご支援の力を改めて実感しました。

私たちは「すべての子どもに豊かないのちを」という願いのもと活動しています。その願いが実現すれば、WVのような団体は不要になるかもしれません。実際、私が訪れた地域からもWVはやがて卒業するでしょう。しかし国内外には依然として課題が山積し、形を変えながら大きくなっています。このような時期の事務局長就任に身が引き締まる思いですが、創設者ボブ・ピアスの言葉「何もかもはできなくとも何かはきっとできる」を胸に、歴代の事務局長が築いてきた土台を受け継ぎ、新たな課題に精一杯挑んでまいります。何より、WVJの働きは皆さまお一人おひとりのご支援で支えられています。すべての子どもが豊かないのちを生きられるその日まで、どうぞ変わらぬお力添えをお願いいたします。



「あの子の成長が、ここにある。」 2026年、新サービス「マイチャイルド」が始まります

「マイチャイルド」は、スマートフォンやパソコンから、チャイルドと支援地域に関する情報を見ることができる、あなただけの専用ウェブページです。チャイルドの最新の写真や動画、支援地域の紹介映像のほか、手紙・成長報告・グリーティングカードなども「マイチャイルド」上で確認ができます。さらにオンラインで手紙を送れるEレターも、充実した機能が加わり、より便利に。チャイルドをより身近に感じることができる「マイチャイルド」、ぜひご期待ください。



おすすめポイント

- ・日本語で簡単にEレターを送れます。写真添付も可能です。
 - ・チャイルドの毎年の写真と動画が一覧に。毎年の成長を感じられます。
 - ・チャイルドが参加した活動も随時お知らせ。自動通知メールが届きます。
- ※「マイチャイルド」サービス開始に伴い、現在マイワールド・ビジョンで運用中のEレターは、2026年6月頃を目標に終了いたします。
- ※画像はイメージです。※サービスの内容や実施時期は変わることがあります。

チャイルドの情報を見逃さないよう、メールアドレスのご登録をお願いします

今後、チャイルドからの手紙や動画、参加した活動の最新情報など「マイチャイルド」からの通知もメールでお届けいたします。メールアドレスの登録がお済みでないかたは、お早めのご登録をお願いいたします。

※マイワールド・ビジョンでは、ご送金履歴の確認・各種手続き(住所・電話番号・メールアドレスの登録情報の確認・変更)などができます。

※メールアドレスご登録後、反映までに3~5営業日かかります。

- ①右のコードをスキャンし、マイワールド・ビジョン^{※1}にアクセス
- ②「アカウントを作成する」をクリックし、必要事項を入力する^{※2}



INFORMATION

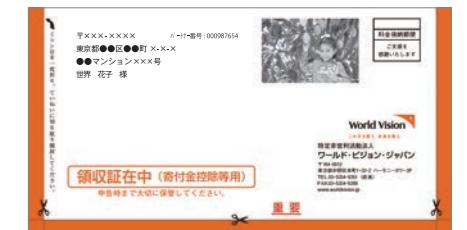
住所変更もお忘れなく！お引越しをされた方、予定されている方はご連絡ください

登録情報の変更は
こちらから



領収証 2026年1月22日に発送予定です

2025年1月1日から2025年12月31日までに当団体が受領したご支援金の領収証を発行します。郵便配達の状況により、お手元に届くまで日数がかかる場合があります。1月末頃までお待ちいただけますようお願いいたします。2025年領収証は、12月20日時点のご登録住所にお届けします。



領収証イメージ

2025年領収証に含まれるご寄付

- | | | |
|---------------|---------------|-------------|
| ■ クレジットカード | ■ コンビニエンスストア | ■ 口座振替のご利用 |
| のご利用 | からのご送金 | 2025年12月のお引 |
| ご支援方法やご利用のカ | 2025年12月10日まで | 落とし分まで |
| ードの種類によって異なりま | | |
| す。詳しくはホームページ | | |
| のご案内をご確認ください。 | | |

上記以降の寄付は、翌年の領収証に含まれます。送金履歴はマイワールド・ビジョンでご確認いただけます。

寄付金控除は確定申告で

当団体は東京都より「認定NPO法人」として認められており、皆さまからのご支援金は、確定申告によって税制上の優遇措置が受けられ、最大40%が控除されます。

△年末調整では寄付金控除等を受けることはできません

領収証についてのご案内はこちら



クレジットカードの決済エラーになる方が増えています。ご注意ください

ご登録のクレジットカードの有効期限が切れる等、カード番号が新しくなる際には、再登録をお願いします。マイワールド・ビジョンまたは電話、書面(郵送)にて、お手続きいただけます。

電話 0120-465-009(9:00~23:00) Web マイワールド・ビジョン

送金履歴の照会/クレジットカードの
登録情報の変更はこちら

